

7月例会「初夏・水辺のいきもの探検」報告書

- と き 令和7年7月27日(日) 午前10時～11時30分
- ところ お祭り広場／トンボ池周辺(集合・解散)
- 指導員 清田、倉光、長濱、益田、中間、佐藤、赤星、中園
- 講 師 清水 稔 先生(熊本博物館学芸員)
- 参加者 24家族、59名
- 観察種 45種

(水生動物) ニホンアカガエル、ウシガエル、トノサマガエル、シュレーゲルアオガエル、カダヤシ、ドジョウ、アメリカザリガニ、タイコウチ、オオミズムシ、カワリヌマエビ、キュウシュウナミコキセル

(陸上動物) リュウキュウベニイトトンボ、クロイトトンボ、ウチワヤンマ、マユタデアカネ、ウスバキトンボ、ショウジョウトンボ、チョウトンボ、シオカラトンボ、ギンヤンマ、オオカマキリ、ナガゴマフカミキリ、キマダラカメムシ、チュウゴクアミガサハゴロモ、ヒメオサムシ、ノコギリクワガタ、シロテンハナムグリ、オオヒラタシデムシ、ヤマトタマムシ、ザトウムシ、ケラ、エダナナフシ、ショウリョウバッタ、トノサマバッタ(幼虫)、ハネナガイナゴ(幼虫)、シャクガ(幼虫シャクトリムシ)、ドクガ(幼虫)、モンクロギンシャチホコ(幼虫)、ツマキシヤチホコ、ニイニイゼミ、アブラゼミ、キマダラヒカゲ、モンキチョウ、コムスジ、ツマグロヒョウモン



記録的な猛暑が続く中での開催となりましたが、お祭り広場(トンボ池)には魚あみやバケツ、虫あみや虫かごを持った子ども達が集まりました。始まりの会で「熱中症に注意しながら、何でもかんでも採集してみよう」と聞いて、子ども達は元気一杯、トンボ池に入り、広場を走り回って「水辺の生き物」採集にチャレンジ。熱中症予防のためいつもより早めに閉会しました。

たくさんの「生きものの不思議」を教えていただいた清水先生に心からお礼申し上げます。

トンボ池の“生き物たち”のちょっと気になる変化



講師・清水稔先生から、当日の感想文をお寄せいただきました。

当日気になった点は、アカハライモリとコオイムシがまったく採集されなかったことです。



イモリはおそらく大多数が変態完了して上陸しています。それでも数個体はまだ残っているだろうと思っていたのですが…長命な動物なので 1 年繁殖数が減ったところで大した問題はないとは思いますが、ちょっと心配しています。



コオイムシは成虫も幼虫も毎年結構な数が捕れていましたが、今年は0。これも飛翔する昆虫なのであまり心配はしていませんが、何か環境の変化などに関連があるのではないかと疑ってしまいます。



羽化途中のセミを見つけた小さい子連れの親子がいたので、この時間帯に羽化すると失敗の可能性が高いことや、アリやハチなどに襲われやすいことなどを話しました。

そして、その個体も背中が割れてはいるものの頭まで出きっていない状態で動きが良くなかったことから、「おそらくこれも失敗」と言おうとしたのですが、木の幹を上ってくるアリを払い落として守ろうとし始めたので、現実を伝えることができませんでした。

自然の厳しさを感じる良い機会だとは思ったのですが…終了後、確認しに行ったらやはりそのまま止まってしまっていました。そして、まだアリが群がっていなかったことに安心しました。